平成27年度第３回大阪府障がい者自立支援協議会地域支援推進部会

精神障がい者地域移行推進ワーキンググループ議事概要

日　時：平成28年2月２３日（火）午後２時～

場　所：大阪府庁本館１階　共用会議室

出席委員：北野委員、河野委員、辻井委員（ＷＧ長）、正岡委員、南委員〔五十音順〕

【議題１】ワーキンググループ中間まとめ（案）について

* 事務局説明
* 委員意見等
* ２４年度の個別給付化で「地域移行は市町村で」という流れがあり、市町村なりに独自の取り組みを進めてきている。都道府県、保健所、市町村が具体的にどのような役割を担っていくのかを整理する必要がある。
* 地域体制整備コーディネーターは、無所属かフリーで活動していくことを想

定しているのであれば、どこが財源的な負担をしていくのかがはっきりしな

いと進まないのではないか。

* 地域移行支援の利用につながっていない対象者に退院へのはたらきかけをす

る際も、多くの支援者が何らかのはたらきかけをしている。現在は、全く保障がないこの部分に何らかの評価は必要。緩やかな「地域移行支援準備（仮称）」のような制度を導入する必要性があるのではないか。

* 病院スタッフの８割の方が、研修受講後、担当する患者に地域移行できる患

者がいると答えているが、長期入院の方の中には、院内で問題なく過ごしているからと言ってすぐに地域に移れるかというと、そこにはいろいろな困難があり、個人によっても差がある。

* 地域移行に関して、大阪府・大阪市・堺市の３者で協議していくことは必須である。
* 病院内での患者の地域移行を考える際に、外出の付添や外部との連絡等は看

護師が本来業務としてできない。病院のケースワーカーの配置が増えればいいと思う。

* 障がい者総合支援法のもとでは、事業所の設置目的が明確化されており、長

期入院患者が退院直後に利用しにくい。既存の社会資源が持っている機能や

役割が、地域移行対象者のサービスとして合致するかどうか、新たな資源も含めて検討していく必要がある。

* ピアサポーターの活動を考えたとき、地元という移動しやすいなじみのある

場所で活動できることが大切だが、一方で圏域や府域での情報交換で、いい取り組みを伝えたり、他のいいところを取り入れたりしていくことも必要である。ピアサポーターが活動しやすい育成方法を考えるべきである。

【議題２】その他

　○今後のスケジュール（案）について事務局から説明　⇒　了